

●●暮らしの広場●●

がん
克服へ
 [34]
工藤 明敏
 ■大腸がん編



ります。
 手術で
 は、がん
 のある大

進行がん(上)

がん手術の目的は、がんを残すことなくすべて切除することです。
 切除はがんを含めて、がんからなるべく離れた部位で行います。進行がんだけでなく、早期がんでも内視鏡による切除が困難であれば、外科的手術を行うことにあります。

切開の小さい 腹腔鏡で手術

腸とその周囲のリンパ節を取り除きます(リンパ節郭清)。大腸がんが広がる通路は、リンパ管と肝臓に注ぐ静脈(門脈)です。がんがリンパ管に入り込み、リンパ節に流れ込むと、免疫反応によってがんは死滅します。しかし、生き残ったがんが増えれば、リンパ節転移となり、少しずつ遠くのリンパ節に転移が進みます。

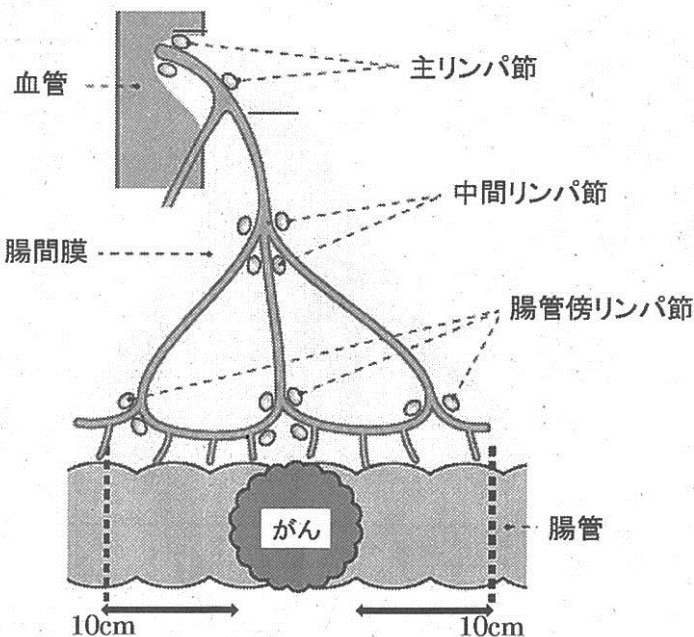
そのため手術では、リンパの流れに沿ったリンパ節も切除します。がんの進行度により、リンパ節郭清の程度は異なります。大腸を切除した後には、便の通り道を確保するために大腸をつなぎます(吻合)。

最近では、腹腔鏡を用いて小さな皮膚切開で行う内視鏡外科手術が普及し、早期がんばかりでなく、進行がんに対しても行われます。

リンパ節郭清は、通常開腹術と同様に行うことができます。

す。へそに1センチの小さな穴を開けて炭酸ガスで腹腔内をふくらませ腹腔鏡を挿入します。さらに4カ所穴を開けて細長い手術器具を挿入し、モ

肥満の人や、がんが周辺臓器に浸潤している場合、大きなリンパ節がある場合は、腹腔鏡手術ではなく通常の開腹手術で行います。



日本のリンパ節郭清は、症例に応じて中間リンパ節・主リンパ節も切除し、腹腔鏡でも行える

肛門に近い直腸がんの腹腔鏡手術の手法は、難易度が高く再発率は結腸がんと比べて高いため、安全性と有効性のため一部の施設でのみ行われています。この手術は傷が小さいため術後の痛みが少なく、また腸の運動の回復が早いので、早期に退院できる利点があります。

穴が一つだけの単孔式腹腔鏡手術、手術支援ロボット、3Dカメラモニター、止血装置の進歩により、今後ますます腹腔鏡手術は増えるものと思われれます。日本の手術手技は世界で最も進んでおり、手術成績は欧米より良好です。

(阿知須共立病院診療部長、外科部長)

第2火曜日掲載